

## 自他の健康と命を大切にする児童の育成

～外部講師を活用したがん教育の取組を通して～

鹿屋市立東原小学校

養護教諭 中筋 瑞姫

### 1 はじめに

本校は、鹿屋市のほぼ中央部に位置し、児童数 114 人、特別支援学級 3 学級を含む 9 学級の学校である。学校教育目標を「人権尊重の精神を基調に、自ら学び、心豊かで、心身ともにたくましい子どもの育成をする」と掲げ、学校・家庭・地域・関係機関等と連携し、心身ともに健やかな児童の育成を目指して、保健指導の充実に努めている。

### 2 児童の実態

児童は、素直で明るく活発であり、「拓き・創り・翔け」の校訓のもと、日々の学校生活を送り、伸び伸びと成長している。

一方で、病気の予防や心身の大切さについて無関心な面も見られ、基本的な生活習慣の確立が不十分だったり、友達との関わりがうまく構築できなかったりすることが原因で、心や体の不調を訴える児童もいる。児童一人一人が健康と命の大切さを感じて、仲間とともに健やかな生活を送られるようにしていく必要がある。

### 3 テーマ設定の理由

児童が生涯を通して心身ともに健やかな生活を送るためには、生活の基盤に健康と命があることを理解し、自らの心身の健康を適切に管理して、改善していく資質や能力を育む必要がある。がん教育は、児童に健康に対する関心をもたせ、正しく理解して、適切な態度や行動をとることができるようにするための大変重要な健康教育であると考えます。

取組の際には、がん教育は配慮することが多いため、学校だけではなく、家庭・関係機関等と連携して進めていくことが大切だと考える。

そこで、外部講師を招き、家庭と協力し、個々に配慮した横断的な取組を充実させることを目指して本テーマを設定した。

### 4 取組の実際

#### (1) 保護者向けの事前アンケート

がん教育を行うにあたり、児童の実態や保護者の不安感・困り感を把握するため、保護者を対象に事前のアンケート調査を行った。

質問項目	回答
家族やお子様の身近にがん患者やがん経験者がいますか？	いる (61.5%) いない (38.5%)
お子様は、家族や身近な人をがんで亡くしたことがありますか？	ある (46.2%) ない (53.8%)

当初、児童にとってがんは遠い存在のものと予想していたが、このアンケート結果から、かなり多くの子供たちに、がんが身近にあるということが分かった。

#### (2) 保護者・職員向けのがん教育研修会

がん教育を進めるにあたり、がん教育とはどういうものなのかを保護者や職員が正しく理解しておくことが必要である。がん教育の目的や進め方など、アンケートの結果を基に保護者の不安感や困り感に対応しながら、外部講師（がん経験者）の方と連携を図り、がん教育研修会を実施している。



[がん教育研修会]

#### (3) 児童向けの事前アンケート

児童自身の気持ちや実態を把握するため、事前アンケートを実施した。保護者の事前アンケートと照らし合わせたり、がんや命についてどのように考えているのかを分析したりして、児童の実態を把握した。

#### (4) 事前授業の実際

事前アンケートの結果を基に、配慮事項等を整理し、学級担任と連携してがんの知識の理解を深める学習を行った。がんの成り立ちや種類、原因、治療法、予防法について学習を行った。授業後は、がん患者に直接聞いてみたいことをアンケートで調査した。



【担任による事前授業】

がんを進めるにあたっての配慮事項（一部抜粋）

- ・事前に週報などでがんの授業を行うことを保護者にお知らせする。
- ・どんな気持ちにも間違いはなく、無理はしなくていいことを伝える。
- ・複数の職員で児童の様子を観察しながら授業を進める。授業後、状況に応じて授業での児童の様子を保護者に伝える。

(5) いのちの授業の実際

がんの知識を学んだ授業の後に、外部講師（がん経験者）を招き、いのちの授業をしていただいた。がん経験者の方から直接がんの様子や、命と向き合っただけで感じたことなどを話

していただきその言葉一つ一つが児童の心に響いている様子であった。

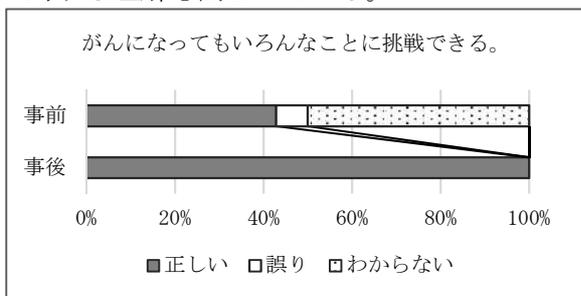


【外部講師によるいのちの授業】

(6) 児童の感想記入と事後アンケート

授業後、講師に手紙を書いて感想を伝えた。感想の多くには、前向きな言葉が書かれており、充実した時間であったことが確認できた。

また、事前アンケートと同様の内容で事後アンケートを実施した。事前と比較した結果の一部が以下のグラフである。児童のがんに対する理解も高まっている。



(7) 掲示物等による事後指導

6年生が「いのち」について、学んだこと

や感じたことをまとめ、保健室前に掲示した。

この授業をきっかけに、「ありがとうの木」を作成し、全校で「ありがとう」を伝え合う取組を行った。相手を思いやるメッセージが溢れる温かな掲示となっている。



【6年生が学んだこと】



【ありがとうの木】掲示物

5 成果と課題

(1) 成果

ア 保護者にアンケートをとったり、研修会を行ったりしたことで、保護者のがん教育への関心を高めることができ、家庭と連携しながら進めることができた。

イ 外部講師と情報交換をしながら授業を行ったことで、児童のがんの正しい知識と命の大切さについて、深く考えることができた。

(2) 課題

ア 児童一人一人の抱えている背景は様々であるため、それらに対応した配慮が行えるよう、日々、児童理解や自己研鑽に努めていく必要がある。

イ 学校全体でがん教育に取り組み、他の学年や他の教科等とも関連付けた取組を充実させていく必要がある。

6 おわりに

がん教育を充実させることは、健康と命について深く考え、心身の健康づくりの土台を作っていく上で重要なことだと感じた。

児童が自己理解を深め、他者貢献につなげていけるよう、自他を大切にできる児童の育成を目指して、今後も、学校・家庭・地域・関係機関等と連携を図った取組を充実させられるよう努めていきたい。